



# 食べて健康、喋って健口！

～つばさのリハビリテーション～

言語聴覚士 高崎 友佳

今回ご紹介させて頂くFさんは、笑顔が素敵な方でご主人とお二人で仲睦まじく過ごされています。Fさんは、進行性の疾患をお持ちのため、飲み込み難い、喋り難いといったお困りがあります。現在は、主に胃瘻から栄養を摂られています。少しずつでも口から味わう楽しさを続けたいと、Fさんとご主人からご希望があり、嚥下（えんげ）リハビリの介入が始まりました。リハビリの際には、飲み込みの力を維持するための嚥下訓練を行ったり、実際の食材を味わうこともサポートしたりしています。

この日は、「季節の果物の酸味や甘味をちょっとでも味わえたらなあ」とご主人が用意した苺やスイカでシャーベットを作っておられました。専門職として、どのようにすれば飲み込み易いのかを考えながら、とろみを付けたり、一口の大きさを提案したりしながら、ご主人のサポートをしました。Fさんは、お楽しみ程度ですが、穏やかな表情をされながら美味しく味わっておられました。

また、少しずつ発声が難しくなっているため、一日でも長くお二人仲良くお話ができるようにと思ひ、呼吸や発声の訓練も続けています。お二人に、夫婦の会話で大切にしたい言葉を選んで頂き、その言葉をメインにして訓練で発語してもらっています。最近では、就寝前にご主人に「おやすみ」を2回言っておられるという微笑ましいエピソードも伺っています。また、今後の事も考え、話し言葉以外にも、実物やイラスト、単語を指差すことで気持ちや要求を伝える練習にも取り組んでいます。



私たち言語聴覚士は、飲み込みや言語にお困りがある方をサポートする専門職です。お気軽にご相談下さい。

## 食事や栄養に関するお悩みは つばさの食支援チームへご相談ください

管理栄養士と言語聴覚士という食事にまつわる専門チームが、食事や栄養に関するお悩みに対応します。いつでもご相談ください。  
☆栄養指導と言語聴覚士のリハビリは、当院の診療を受けておられない方でもご利用いただける場合があります。

毎号コラムも掲載しております。



2022年4月発行  
第42号

# つばさ新聞

## 理事長のコメント

すっかり暖かくなってまいりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか？4月といえばお花見の時期ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにも、今年も我慢が必要ですね。ぜひ、来年こそはやりたいものです。

さて、皆さんは「BCP(事業継続計画)」という言葉をご存じですか？これは企業が、災害などの緊急事態において、「いかに損害を最小限に抑え、重要な業務を継続しつづけるか」を目的に、具体的な行動指針を示したものです。2011年の東日本大震災以降、その重要性が目目され、大きな会社だけでなく、医療機関や介護、福祉の事業所でも策定が進められています。

当院も地域のかかりつけ医療機関としてBCPを策定し、どのような状況であっても患者さんへの訪問診療を継続する事を念頭に、何を備え、どう動くのかを検討し続けています。みなさんも、「もしもが起こってしまったら具体的にどうしよう？」とご家族と一緒に考えてみてはいかがでしょうか。

(医療法人つばさ 理事長 中村 幸伸)

## 市町村から出される 避難情報 警戒レベル

- ① 避難とは難を避けること、つまり安全を確保することです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。
- ② 危険な場所から警戒レベル3で(高齢者は避難)、警戒レベル4で(全員避難※1)です。

※1 警戒レベル4「全員避難」は、高齢者等に限らず全員が危険な場所から避難するタイミングです。



皆さん、日ごろから「もしも」に備えていますか？

△コロナが心配、でも、命が危なければ避難所に行こう

※避難用の準備物に、マスクや消毒アルコールを加えると安心です。  
※親族宅や知人宅も含め、複数の避難先を想定しておくことも役立ちます。







# 想いでエピソード

つばさクリニック 看護師 光岡 和恵



今回お話しするのは70代の男性で前立腺癌と診断され、ホルモン療法を行っていたHさんです。多発骨転移があり、痛みも強くなったためご入院されていました。ただ、骨転移による麻痺や、腎機能悪化の影響で化学療法が難しく緩和ケアの方針となりました。

この方は、お家に犬や猫が居て、お子さんやお孫さんも一緒に住んでおられたので、家族と一緒に過ごしたいとの思いが強く、お家での療養を希望され当院が介入することになりました。介入後も、病院で輸血を受けたりしながらお家で療養されていました。

癌の患者さんは、病気の進行に伴い様々な痛みやしんどさが出ることがあります。病気のせいで痛みやしんどさが取れない場合には、鎮静と言うのですが薬で痛みやしんどさを和らげるようにします。

Hさんも、前日に病院で輸血を受けられ、翌日に訪問した際には体調も少し持ち直しているとお話してましたが、同日夜になり急激な体調の変化が起こり、しんどさを取るために鎮静をすることになりました。すぐには効果が出ず、ご家族と一緒に見守っていた時のことです。ご家族の皆さんでベッドを囲む中、娘さんが「音楽でもかけようか？気が紛れるかなあ」と…。すると、「ピアノでも弾く？」「加山雄三がえかろう」「え？加山雄三？何がええかなあ。弾くよ~~~~」って徐々に声が上がり、娘さんが奥さんからリクエストの上がった曲をピアノで演奏されました。ご本人も、それからしばらくして穏やかな表情で旅立たれました。

家族で囲んで、ピアノを弾くなんて、病院ではなかなか出来ることではないですし、その場で直ぐにというのは、「家族と過ごすお家」だからこそ出来た事だと思います。

ご家族にとって良い時間を過ごされたのではないかと思います。

最近の忘れられないエピソードです。

つばさクリニック つばさクリニック岡山

定期訪問 午前9時~午後5時 緊急往診 24時間対応

診療科目 訪問診療・内科  
循環器科・呼吸器科・整形外科  
〒710-0047  
岡山県倉敷市大島534-1  
TEL 086-424-0283  
HP: www.tsubasa-clinic.net

診療科目 訪問診療・内科・小児科  
〒700-0026  
岡山県岡山市北区幸違町1-7-7  
TEL 086-254-0283  
www.tsubasa-okayama.net



## Dr.岡田の南極物語リターンズ



### 第9回：雪上車移動の様子その2

雪上車で移動中の食事(昼食)は調理しないでいい簡単なもの(カップヌードルやパン、温めるだけですぐに食べられる弁当)を用意しています。味云々は二の次で、火を使わず、短時間で食べられるものが優先になります。また南極は異常に乾燥しているため、喉がとても渴きます。高度障害を予防する意味もあり、水分を大量に摂取しなくてはなりません。僕は常に傍らに飲み物を置き、運転中も細かく水分補給するようにしていました。ちなみに極寒環境では、動かなくても体力の消耗が激しく、1日5000kcalを摂取してもどんどん痩せていきます。雪上車同士の通信は無線を使います。6台の雪上車が進んでいく中で、先頭車から最後尾まで数km離れる事もあるため、常に無線でお互いの位置を報告し合います。雪上車にはUHF、VHF、HFの無線を装備していて、HFは1000km離れた昭和基地とも通信が可能です。ちなみに緊急用として、衛星(イリジウム)電話と、BGAN(ビーガン)と呼ばれる携帯型衛星通信機器を持ち込んでいました。



(雪上車と)



(移動中のSM100雪上車)



(車内で食事を準備中)

在宅生活をサポートする  
医療・介護サービスのご紹介

定期巡回・随時対応型  
訪問介護看護



ケアステップエール 管理者代理 鈴木順子

適切なアセスメントとマネジメントに基づいて、介護サービスと看護サービスが連携を回りつつ、「短時間の定期訪問」、「随時の対応」といった手段を適宜・適切に組み合わせ、1日複数回、「必要なタイミング」で「必要な量と内容」のケアを一体的に提供するものであり、4つのサービスを提供します。

#### 1. 定期巡回サービス

訪問介護・看護員が計画書に基づいて1日複数回、短時間の介護サービスを巡回して行うもの。

#### 2. 随時訪問サービス

随時対応サービスの訪問の要否の判断に基づき、ご利用者宅を訪問して介護サービスを行うもの

#### 3. 随時対応サービス

ご利用者やご家族等から24時間365日緊急時等に連絡を受け、訪問の要否を判断するもの。

#### 4. 訪問看護サービス

医師の指示に基づき、看護師等がご利用者宅を訪問して看護サービスを行うもの

#### ◆利用条件◆

- ①要介護認定者であること
- ②所在地が岡山市であること
- ③訪問介護・夜間対応型訪問介護・訪問看護併用不可(介護保険)

問合せ：ケアステップ・エール  
岡山市北区今6-5-23 TEL:086-259-8115

